

神戸市立青少年科学館展示室等改修業務第3期審査基準

1. 基本的な考え方

候補者の決定に当たり、総合的に最も優れた企画提案内容であると認めた者を選定するため、提案限度金額以内で見積もった者のうちで、各選定委員（以下「各委員」という）の採点の合計点により順位を決定する。最も順位が高い企画提案者を候補者とする。

2. 評価の方法

以下の「項目評価点の考え方」に基づいて、「提案書等評価基準」により各委員が採点し、各委員の合計点を総計する。

なお、地元企業が単独でプロポーザル選考に参加する場合は（1）の配点を、地元企業と共同してプロポーザル選考に参加する場合（2）の配点を加算する。

（満点は380点）

また、企画提案部分の評価点の合計点が6割に達していない場合は、委託予定事業者として決定しない。

【項目評価点の合計点による順位の考え方】

評価項目は0～5までの6段階で評価する。（標準は3）

評価	評価方法
5	該当項目について十分な理解・認識があり、企画提案が非常に優れている
4	該当項目について十分な理解・認識があり、企画提案が優れている
3	該当項目について十分な理解・認識があり、企画提案が標準的である
2	該当項目について十分な理解・認識があまり認められず、企画提案が劣っている
1	該当項目について十分な理解・認識が認められず、企画提案が非常に劣っている
0	本市の掲げた項目内容に合致しないもの・記述のないもの

【提案書等評価基準】

別表1の通り

3. 地元企業の参画に係る加点

地元企業等の参画を促進するため、2による評価点に加え、以下の通り加点を行う。

（1）地元企業が単独でプロポーザル選考に参加する場合の配点について

次の通りとする。

① 地元企業が単独で参加する場合、地元企業加算として40点を加点する。

② 準地元企業が単独で参加する場合、準地元企業加算として1点を加点する。

（2）地元企業と共同してプロポーザル選考に参加する場合の配点について次の通りとする。

① JVの全構成員が地元の場合 40点を加点する。

② JVの代表事業者が地元、構成事業者が地元以外の場合 20点を加点する。

③ JVの構成事業者に地元業者が参加する場合、地元企業加算として 5点を加点する。

④ JVの全構成員が準地元 1点を加点する。

4. 候補者の決定方法

2における評価の順位が最も高い者を候補者とする。

5. その他

(1) 合計点数の最も高い者が複数あるときの対応

- ① 「展示」の点数の合計が異なる場合は、「展示」の点数の合計が最も高い者を候補者とする。
- ② 各々の「展示」の点数の合計が同じ場合は、「共用部分」の点数の合計が高い者を候補者とする。
- ③ 各々の「展示」の点数の合計および「共用部分」の点数の合計が同じ場合は、「企画提案の全体的な評価」の点数の合計が高い者を候補者とする。
- ④ 各々の「展示」の点数の合計および「共用部分」の点数の合計、「企画提案の全体的な評価」の点数の合計が同じ場合は、「提案額調書」の額が低いものを選定する。
- ⑤ ①～④のすべてが同じ場合は、別途日を定めてくじ引きにより候補者を決める。

別表 1 選考項目

選考項目			配点
企画提案	更新計画に関する理解度		科学館の基本コンセプト「ふれる・つくる・つながる」および第3期リニューアルの基本方針を正確に理解した提案となっているか /20
	具体的内容及び方法	展示室	「情報」展示室の展示において「情報」という抽象的な概念を、五感を通じた体験設計によって多世代が直感的に理解できる工夫がなされているか。また、生体情報の取り扱いや投稿型コンテンツにおけるモデレーション等、運用の安全性・信頼性がシステムレベルで具体的に担保されているか。 /30
			宇宙展示室の天井高という物理的特徴を最大限に活かし、来館者の知的好奇心を強く刺激するダイナミックな体験型展示（モニュメント等）が提案されているか。また、その提案は床面積や動線等の制約を考慮した、実現性の高いゾーニングに基づいているか。 /30
			変わり続ける先端技術に対応する可変型展示の提案において、大規模な工事を伴わず「コンテンツの差し替え」だけで迅速かつ低コストでリフレッシュできる構造が提案されているか。また、その手法が10年後の有効活用や現場スタッフによる更新まで考慮された現実的な内容であるか。 /40
			来館者の主体的介入（試行錯誤）を促す面白さを重視しつつ、故障・摩耗への対策として、JIS規格品や汎用部品の活用による「容易な交換・修繕（セルフメンテナンス）」が考慮された設計になっているか。高い体験価値と低いランニングコストを両立させる具体的な根拠が示されているか。 /40
			ゾーニング平面図とイメージパースが密接に連動し、来館者がどのような「問い」を持ち、どのようなストーリーを体験するかが具体的に描かれているか。空間設計とストーリー展開が整合しており、展示の意図を直感的にイメージできるものとなっているか。 /30
			提案された展示アイテムが「情報・宇宙展示項目表」のねらいを漏れなく網羅し、かつ各アイテムの理解度レベルが適切に設定されているか。項目表との対応がマトリクス等で明快に整理され、計画の妥当性が客観的に証明されているか。 /30
			展示物の数・配置・動線について、展示面積を十分に生かした提案がなされているか。バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。 /10
			利用者にとって体験的、双方向性の高い展示となっているか。また、世代を超えて楽しむことができる展示であるか。 /10

	共用部分	イベント、学習、休息といった多様なシーンに柔軟に対応できる可変性を備え、「情報」と「宇宙」の境界を越えた横断的な気づきを促す空間となっているか。また、カームダウンルームの設置など、多様な来館者への配慮(ユニバーサルデザイン)が具体的になされているか。	/30
	提案額等	提案額および内訳が妥当で費用対効果が高いか。10年間の保守点検や維持管理費(ランニングコスト、ライフサイクルコスト)が明示され、省エネや機器の長寿命化に配慮されているか。可変型展示のマイナーチェンジ費用・通信費・ライセンス料等が含まれているか。	/10
	企画提案の全体的な評価	提案全体を通じて、展示コンセプト・設計・運用の一貫性が高く、科学館が目指す展示像を総合的・魅力的に実現できると判断できるか。	/30
小 計 (①)			/310
業務実施体制及び業務計画	実施体制	科学的内容を検証できる専門家監修体制が整っているか(監修者の経歴等を明示)。情報・宇宙の両分野にわたる業務遂行に必要な体制・人員が確保されているか。	/10
	業務計画	工程計画・品質管理体制が具体的かつ現実的か。リスク管理・不測事態への対応方針が示されているか。	/10
業務実績		・直近10年間において、元請として博物館・科学館等(常設展示で1000㎡以上)の十分な施工実績を有しているか。 ・本業務担当者の経歴や同種業務の経験が豊富であるか。	/10
小 計 (②)			/30
③地元企業加算			/40
合 計 (①+②+③)			/380